

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	肝硬変患者における予後・肝疾患イベントに関連する因子と新規バイオマーカーに関する多施設前向き観察研究
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 実施承認後 ~ 終了 西暦 2030年 3月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	肝硬変 (当院 100 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 実施承認後 ~ 至 西暦 2027年 3月 31日 (予定)
研究概要*	肝硬変は肝疾患の終末像の1つであり、ウイルス性肝炎、アルコール関連肝障害 (ALD)、Metabolic dysfunction associated steatotic liver disease (MASLD) など様々な疾患に起因する。肝硬変患者では、肝機能の低下に加え、肝細胞癌や門脈圧亢進症に伴う様々な合併症を併発する。近年、B型肝炎ウイルスに対する核酸アナログ製剤治療やC型肝炎ウイルスに対する直接作用型抗ウイルス薬の登場によりウイルス性慢性肝疾患に対する効果的な治療が可能となった一方で、生活習慣の欧米化に伴い MASLD 患者の増加が見られており、肝硬変に至る患者における背景肝疾患の変容が予想される。一方で、肝硬変患者の経過では、肝細胞癌の他、門脈圧亢進症に伴う合併症、Acute-on-chronic liver failure (ACLF) など、その経過は様々である。本研究は肝硬変と診断された患者を前向きに集積し、その経過や転帰、予後に関連する因子を明らかにすることを目的とした多施設共同研究である。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署 (施設・研究室) で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳